

和歌山大学ミニFM放送局

プロジェクト構成員

山口卓也, 安森梢, 朝倉健太, 小林真奈, 竹内裕亮, 高木章喜, 田代哲也, 藤本真, 馬場健一, 福本理絵, 林憲正, 山本直人, 北又一樹, 福永隆行, 前川隆史, 雑賀広子, 西村洋子, 田端宏之, 真本英幸, 内海大輔

指導教員

鈴木裕範 (経済学部)

【演習の背景・目的】

情報で学生と学生を結び、教職員と学生をつなぐメディア。学生が自主的に作り上げていく大学の放送局。これが、和歌山大学ミニFM放送局のキャッチフレーズです。

大学は「知」と「情報」の宝庫です。約5千人の学生と、300人あまりの教職員の教育と生活の場である和歌山大学では、授業と共に、サークル、ゼミのフィールドワークなど、いろいろな生活が展開されています。しかし、そうした取り組みやキャンパス情報は、はたしてどれくらい知られているのでしょうか。情報の広がりやすさが、一方で大学への無関心やコミュニケーションの欠如をもたらしていないのでしょうか。

放送局は、開局の柱の一つに、人と人、大学と個人、大学と地域を結ぶことを掲げます。そのために、学内における数多くの情報を発信する基地を目指します。二つ目は、南海大地震などの巨大災害の発生が予想される中で、学生をはじめ大学関係者の生命と安全に関わる問題など、災害と防災に対する情報の重視です。三つ目は、音楽をベースに大学生DJのトークも交えた、大学でないと作成できない、学生主体の斬新な放送局です。

今回の目標は、立ち上げまでの放送機材の選定、放送の仕組み、放送するまで、実際の放送までをレポートします。

【演習の実施方法】

1. ミニFMについて学ぶ。
 2. 議論を重ね、方針や他大学の放送部・サークルの活動内容を知る。
 3. 和歌山放送の番組編成・製作に携わる職員、技術に携わる職員の方から講習を受ける。
 4. 機器の選定を他放送局に学ぶ。
 5. 電波チェック。
 6. 防災講習を受ける。
 7. 学園祭に向けての番組作成と、通常番組の作成。
 8. ホームページの作成。
 9. 放送機器の使い方を学ぶ。
 10. 毎週1回必ず会議を開き反省や提案、問題定義をする。
 11. 最後に学内にアンケートをとり、今後の課題と方針を決める。
- 以上の方法によりミニFMの運営について身につけていきました。

【演習の成果】

1. ミニFMについて学ぶ。

演習方法は主にホームページ内のミニFMに関する情報サイトから資料を取り、プリントにして学びました。

「ミニ FM は免許の要らない出力 0.5 mW 以下の微弱電波を利用した放送局である。」ということが分かった。他の放送局（例えばコミュニティー FM）の場合は出力が 10 ~ 20 mW であるのに比べると、かなり微弱だと分かる。電波到達距離も必然的に小さくなるはずである。実際にミニ FM は 500 m ラジオだといわれているくらい範囲は狭い。このことを考慮して送信アンテナの位置を考えていかないといけない。

その結果、位置は大学の中心である教育棟、経済棟あたりが妥当となった。



2. 他大学を知る

これも演習方法はホームページがメインである。大学が放送サークルを作って活動しているところの活動内容をまとめ、プリントし、どのような活動ができるのかについて学びました。すると、2つのパターンがあるのだと分かりました。

- 1) 学内に放送室を作り、そこから放送。プラスインターネット放送を開設。
- 2) 近くの放送局（ラジオ局）に番組枠をもらい活動している。

また、活動内容の共通点は放送はお昼休みの 30 分間を生放送や収録番組として生協などに流している。放送のみではなく、学園祭の機材・ミキサーの人員派遣や各種式典などでの MC としての活動。このような活動があることが分かった。

クリエでの活動の一環として、高速回線を使った佐賀大学との交流も 2 回のみだが、行って来た。

佐賀大学のメディア研究会の放送内容や活動内容などについて意見の交換を行う事が出来たが、私たちの体制がまだまだ整っていないこともあり、合同番組の作成計画案は進まなかった。また、質問攻めにしてしまったことも反省の一つである。

しかし、スムーズな映像会議ができるということにいろいろな可能性があると思ったのは間違いない。今後の活動に加えていく事が出来たら、活動範囲がうんと広がると思うので、計画を進めながら考えていきたいと思います。



3. 4 機種を選定と講習会

一番困難だったのが放送機器の選定である。これに関しては、三重大学の FM サークルさん、Kiwi FM さん、和歌山放送技術担当の湯川靖丈さん、尾久土先生にとっても感謝しています。どんな機材が必要かは以上に述べた方々にアドバイスをもらう事でそろえる事が出来ました。

講習会

和歌山放送の湯川さんには放送機器と放送の仕組みなど、技術的なことを計 4 回もの講習で学びました。また、同じく和歌山放送の中村編集局長さんにはラジオ番組の制作について、クリエの尾久土先生には放送機械の扱い方について講習をしていただきました。

技術講習

技術講習では、電波のことについて学ぶ事が出来ました。FM の周波数決定の際に注意する事は、必ず電波の空きを見つけて選局すること。とある電波、例えば 77.0 MHz の局があったなら、そこから 400 kHz くらい離すこと。そうすれば電波同士の混信もなくスムーズに聞く事ができるということがわかりました。また、混信は違法電波となるため放送する側にとっては注意が必要だということがわかりました。



また、ミキシング卓の構成についてや、中継局の有無の必要性についてこの講習会で学ぶ事が出来ました。

番組編成講習

この講習では実際の放送番組がどのように出来ているかについて学びました。また、音楽や効果を入れる放送テクニック、実際の放送でのキューシート(番組進行表)の作成方法を学ぶ事も出来ました。今後の私たちの放送の基盤となるものを得る事が出来ました。

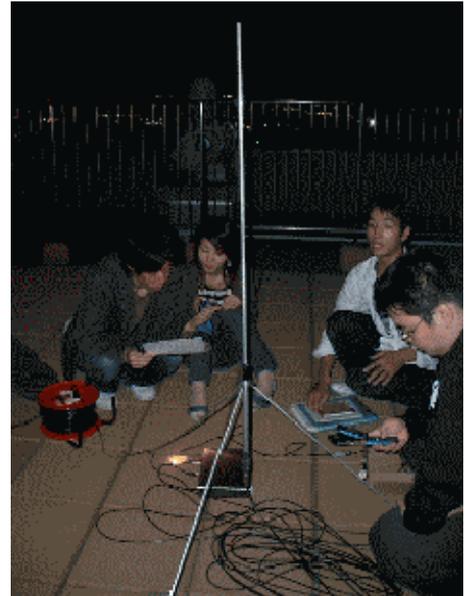
この中で、著作権というものも学ぶ事が出来ました。JASRAC(日本著作権協会)の実際に問い掛けたところ、ミニFMに対する音楽ソフトの著作権料の発生は今のところ無いと回答。したがって、今の放送では音楽をフリーに使わせてもらうことができているのである。しかし、広告料をもらったりという商売目的の放送では著作権が発生するという事である。

5. 電波チェック(教育棟屋上より)

この電波チェックは実際に送信機と送信アンテナからどれだけの範囲に電波が飛ぶか、また音質はどうかというものを調べ、学内地図に記していこうというものである。

ここで一つ間違いが起こってしまったのだが、送信機の規格が最初は知らずに50mWに設定してあった事もあり、学内範囲どころか市内全域で音を拾う事が出来てしまった点だ。その後0.5mWに設定し測定をし直した所、カーラジオなら日航社宅前が限度だとわかった。さらにシステム工学部棟などの建物の裏では電波の入りが弱く、ノイズが混じる事が確認された。

この結果から、ミニFMの特徴である、500mラジオの名の意味が理解、実証されたと思うのである。ただ、ここで大学の範囲がカバーできているということは500mの範囲を超えていると思うかもしれないが、これはアンテナの位置が高く、見えやすい位置に設置されている事も大きな原因の一つ。また、気候によって晴れの日と雨の日では電波の入り具合が大きく異なるということも、日々の放送から得た結果である。



【まとめ・検討課題】



放送するまでの間で私たちが得たことについてや活動内容を綴ってきましたが、ここで今回の活動をまとめたいと思います。

これらの活動を通じてみんなが感じた事、それは「放送に対する思いの変化」だと聞いています。それは以前までは、放送は楽しい、しゃべるのが楽しいから、有名人になった気分など放送に対する華やかなイメージを持っていた人がほとんど。実際やってみて放送に対する責任の重さや地道な計画の積み上げなど、全く思っていた事とは反するものだったという。

また、防災の意識も変わりました。活動を始めてかや間もなく、新潟、インド沖、そして最近では福岡というように立て続けに地震の災害が起こっています。東南海地震の予想が危惧される中で全く予想もされていないところが災害に遭う。いつ起きてもおかしくない頭に刻み込まれた出来事だったと思います。そのために、私たち局員が先陣を切って動かないといけないのに、体制は整っていないのでは全く役に立たない。そうならないためにも、今後の大きな課題として防災教育の強化を掲げていきたいと思います。

さらに、放送の厳しさと楽しさを学びつつ、今後はもっと活動の範囲を広めていきたいと計画を推進中です。最後に学内約60名に取ったFMWA - HOのアンケート結果をまとめます。

1) ラジオについて教えてください

約60名の中でラジオを聞くという人は少なく13人しかいませんでした。その中で聞かない人の大半は、テレビがあるから、ラジオを聞く環境が無いという理由である。また、聞く人の中では毎回聞く番組があるから、車の中で自然に聞くという人でわかれしました。

2) WA - HOについて教えてください

私たちの活動を知っていた人は26人、しかし実際に聞いてくれていたのはその半分もいなかったという悲しい結果になりました。今後の認知度改善が大きな目標となりました。また、学内のメディアとして学内情報を求める声がとても多い事から、私たちの放送を振り返らなければいけないと感じる事が出来ました。

3) 防災について教えてください

防災に関して興味を持っている人はなんと60人中約半分という結果に。なかでも、絶対に地震は起こらない、あと30年でしょ、興味が無いと答えた人がいたのにはとても危機感を感じました。その中で、興味がある人でも実際の行動(避難場所の確認、避難方法など)を起こしている人は60人中なんとたったの2人。防災意識の改善は必要不可欠と感じました。

